

平成 20(2008)年 10 月 16 日(木)

## お だけかいづか 富山市小竹貝塚発掘調査現地説明会資料

1. 遺 跡 名 小竹貝塚 (5,000～5,500 年前の縄文時代前期の貝塚遺跡)
2. 調査期間 平成 20 年 10 月 6 日 (月) ～10 月 18 日(土)
3. 調査場所 富山市呉羽町北地内 (JR 呉羽駅北約 300m)
4. 調査原因 新鍛治川河川改良工事に伴う発掘調査 (工事立会い)  
面積 440 m<sup>2</sup> (延長 40m×幅 11m)
5. 調査主体 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター
6. 工事主体 富山市建設部 河川港湾課 (工事請負：株式会社 砂原建設工業)

### 7. これまでの調査成果

小竹貝塚は、鳥浜貝塚 (福井県若狭町) と並んで、日本海側最大級の貝塚として知られています。約 6,000～5,000 年前の縄文海進の際に広がった旧放生津潟べりに貝塚が形成されました。

貝塚の所在は昭和 20 年代ころから知られ、過去 8 回にわたる試掘や発掘調査、新鍛治川排水路における採集や自然科学的分析によって遺跡の概要が明らかになってきています。

ボーリング調査等の結果から、貝塚は弧状に広がり、その範囲は東西約 50m、南北 90m 以上を測ります。貝層は水田下約 1.5m～2.5m (標高 1.5～0.5m) に堆積していることが確認されています。

貝層から出土した貝類は、淡水産のシジミ貝 (ヤマトシジミ主体) や大タニシ、ヌマ貝などがほとんどを占め、わずかに海産のサザエやハマグリ・赤貝なども見つかっています。また、クロダイやスズキ、サメなどの魚類や、シカ、イノシシ、イヌなどの哺乳類・両生類・爬虫類の骨も出土しています。

出土品は豊富で、縄文土器や石器のほか、ヤス・釣針・ヘアピン・指輪・垂飾品などの骨角器類もあります。

また、1971(昭和 46)年の富山県教育委員会の調査では、貝層内から屈葬状態で埋葬された人骨 (頭蓋骨は欠落) も見つかっています。

花粉分析の結果から、周辺にはハンノキ林が多く茂り、海岸部に照葉樹林が繁茂していたと推定されています。

遺跡の東約 750m の白鬚神社境内には、ほぼ同じ時代の蜷ヶ森貝塚があります。

新鍛治川にかかる橋 (調査区の南東 50m) 付近からは、木杭を打ち込んだ古墳時代の堰 (しがらみ) が検出されています。

## 8. 今回の調査成果

### 主な遺構

#### 【縄文前期】

貝塚の範囲は、新鍛冶川右岸で南北9m以上、左岸で南北17m以上、貝塚の厚さは現況で55cm以上（過去のボーリング調査では1m以上のデータ有）を確認しました。

右岸南側は、粘土や火山灰の堆積による高台となっています。その北側には緩やかな斜面があり、低湿地に続いています。南側の高台から斜面部に向かって、シジミなどの貝殻や破損した土器などが廃棄されていました。

貝類の主体はシジミ貝で、大タニシを少量含んでおり、従来の見解どおり淡水産貝主体の貝塚と確認できます。海産貝ではカキが多く、赤貝・ハマグリなども少量出土しました。貝層からはイルカ脊椎骨などの獣骨も出土しました。

右岸南側では、土坑数基、集石遺構1基が検出されました。集石遺構は、掘り込んだ穴の中に、焼けて割れた礫が詰まっている遺構です。このような遺構は、葉でくるんだ食物の間に葉で包んだ焼石を挟み、それを完全に葉で覆って蒸し焼きにする石蒸し（アースオーブン）調理用の施設と推定されています。

#### 【縄文以降】

貝層の上には粘土層・木質層が厚く堆積し、その中から古墳時代の土師器（甕・赤彩器台）が出土しました。堰遺構の存在と合わせて考えると、古墳時代には河川が流れていた可能性があります。

集石遺構の後の時代に、2段に掘られた直径90cm、深さ1mの穴があります。断面形から、井戸と推定されますが、正確な構築年代は不明です。

### 主な遺物

貝層中：縄文土器、骨角器、貝殻、イルカの骨、獣骨、人骨（ほぼ完形の頭蓋骨・上腕骨・手足の指の骨）

貝層上粘土層・木質層：古墳時代の土師器、古代の土師器

### まとめ

今回の調査では、貝層の詳細な堆積状況や、貝層の範囲を正確に把握することができました。その結果は、1972（昭和47）年の市教委のボーリング調査の成果と一致していました。

過去の調査によれば、弧状を呈する貝塚の南側には高台があり、そこに集落（居住域）があるのではないかと推測されていましたが、今回の調査で土坑や集石遺構の存在を確認することができ、居住域が実際に存在したことを裏付けました。

### 参考文献

富山県教育委員会 1972「富山市小竹貝塚遺跡」『富山県埋蔵文化財調査報告Ⅱ』

富山市教育委員会 1974『富山市小竹貝塚範囲確認調査報告書』

藤田富士夫 1986「富山県小竹貝塚」『季刊考古学』第15号 雄山閣

富山市 1987『富山市史 通史』上巻

山内賢一・林寺巖州ほか 1993「小竹貝塚出土の遺物について」『富山市考古資料館紀要』第13号  
富山市考古資料館

山崎京美 1993「小竹貝塚採集の動物遺存体」『富山市考古資料館紀要』第13号 富山市考古資料館

## 小竹貝塚出土古人骨について

調査では、貝層内の上部から、縄文時代前期とみられる古人骨が数体分出土しました。

右岸側の貝層からは、左上腕骨1体分、左岸側の貝層からは、ほぼ完形の頭蓋骨1、左上腕骨1、手もしくは足の指骨等が出土しました。

頭蓋骨は、顔を北西に向け、左横向きになっていました。頸骨より下は存在せず、首だけであったのか、胴体部分が排水路工事でなくなったのかは不明です。

下顎骨（したあご）・上顎骨の右側部が残り、下顎骨には5本の歯、上顎骨には3本の歯が見られます。歯は磨り減って上面が平らになっています。

右側頭骨の一部は欠失しています。

これらはいずれも成人と推定されます。

（\*頭蓋骨は現在洗浄中です。）

### 【過去の調査出土の古人骨】

1970年の発掘調査では、貝層の中から手足を折り曲げて埋葬された屈葬人骨が1体出土しました。頭蓋骨・右手は無くなっていました。頭方向は西側と報告されており、今回出土の頭蓋骨は体と逆向きになりますので、これとは別個体と考えられます。

1977年の水路工事では、貝と混じって頭蓋骨と上腕骨、手足の骨が出土しました。

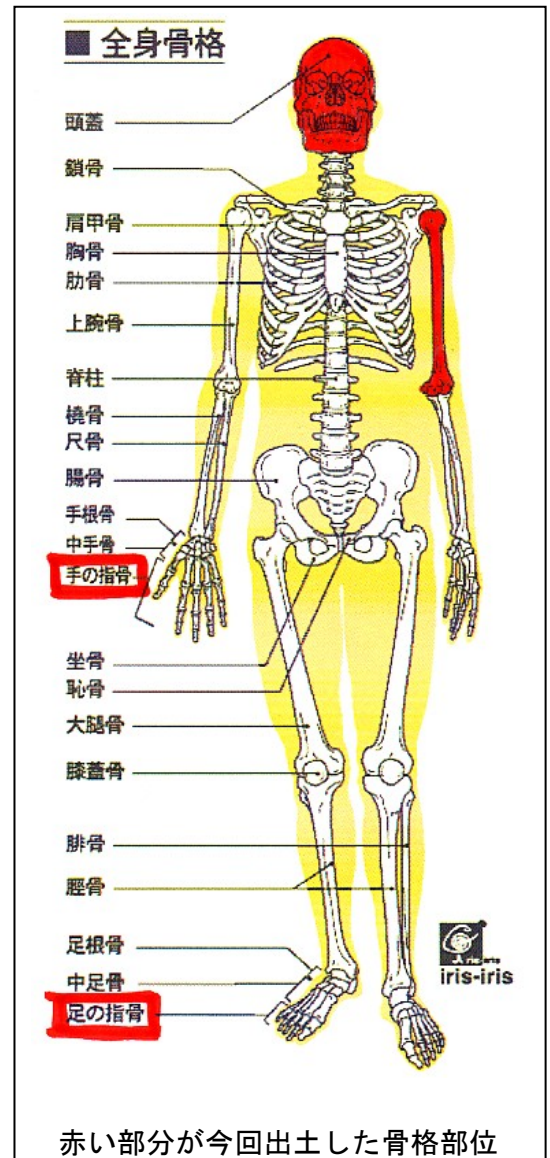
頭蓋骨には縫合線がはっきりみられます。

大多数は成人の骨ですが、子供の骨とみられる上腕骨、関節炎痕のある老人の頸骨もあり、少なくとも3体以上が検出されています（山内賢一氏ら調査）。

\*以上により、今回調査までに、成人4体、子供1体、老人1体の少なくとも計6体が確認されたこととなります。

1970年の調査成果から、これらはいずれも貝層中に穴を掘って埋葬されたものと考えられます。小竹貝塚の人骨は、県内最古の埋葬人骨で、縄文前期における埋葬方法等の解明が今後期待されます。

骨の簡易鑑定は森沢佐歳氏（元富山医科薬科大学教授：人類学・解剖学）のご教示によります。







富山市教育委員会1974『富山市小竹貝塚範囲確認調査報告書』に加筆



貝層堆積狀況（右岸）



50 cm

貝層堆積狀況近景



集石遺構（右岸）



頭蓋骨出土狀況（左岸）